

## ブタの日本脳炎抗体保有状況（2021年）

日本脳炎は、日本脳炎ウイルス（Japanese encephalitis virus：JEV）に感染したヒトのうち100～1,000人に1人程度が発症するとされている重篤な脳炎である。ヒトへの感染は、蚊（日本では主にコガタアカイエカ）が日本脳炎ウイルスに感染したブタを刺咬・吸血し、その後ヒトを吸血することにより起こる。

国の2019年度感染症流行予測調査報告書では、全国的な豚の日本脳炎ウイルス感染状況をみると、2019年度の調査における抗体陽性率は、多くの地域で2018年度よりも高い傾向を示している。また、西日本では夏季だけでなく春から晩秋にかけて長期間の警戒が必要であることが示された。

感染症流行予測事業では、全国各地のブタ血清中のJEVに対する抗体を赤血球凝集抑制法（Hemagglutination inhibition test：HI法）により測定し、JEVの蔓延状況及び活動状況を調査している。前年の秋以降に生まれた豚がJEVに対する抗体を保有し、さらに2-メルカプトエタノール（2-ME）感受性抗体（IgM抗体）を保有している場合、そのブタは最近JEVに感染したと考えられる。下表は本年度の調査期間中における宮崎県のブタの抗体保有状況について示した。

2021年度の宮崎県の調査においては、8月23日に採血を実施した調査において、抗体保有率が50%を超え、2-ME感受性抗体が検出されており、ブタにおける日本脳炎ウイルスの新鮮感染が確認されていることから、本県でも感染環が形成されていると考えられる。

特に、蚊の活動が活発となる8～10月において、日本脳炎の予防接種を受けていない者、とくに乳幼児や高齢者は蚊に刺されないようにするなどの注意が必要である。

2021/10/4

	採血月日	検査実施期間	検査検体数	HI抗体保有率	2-ME感受性抗体陽性率
1	2021/6/14	2021/6/14～6/18	11件	0%(0/11)	—
2	2021/6/28	2021/6/28～7/2	11件	0%(0/11)	—
3	2021/7/12	2021/7/12～7/16	11件	0%(0/11)	—
4	2021/7/26	2021/7/26～7/30	11件	0%(0/11)	—
5	2021/8/2	2021/8/2～8/6	11件	0%(0/11)	—
6	2021/8/23	2021/8/23～8/27	11件	73%(8/11)	71%(5/7)
7	2021/9/6	2021/9/6～9/10	11件	18%(2/11)	100%(2/2)
8	2021/9/27	2021/9/27～10/1	11件	64%(7/11)	71%(5/7)